

令和5年度 第3回 織田廣喜美術館運営協議会 会議録

1. 会議の名称 令和5年度 第3回 織田廣喜美術館運営協議会
2. 開催日時 令和6年3月27日(水) 13:30～
3. 開催場所 織田廣喜美術館 市民アトリエ
4. 公開非公開の別 公開
5. 出席者 ※敬称略

(1) 出席委員

緒方 泉 (会長)
坂本 留里子 (副会長)
坂田 続穂
三木 一司
丸山 桃子
栗野 麻里

(2) 欠席委員

なし

(3) 教育委員会

教育長 木本寛昭
生涯学習課長(館長) 末永 康洋
課長補佐 上野 智裕
図書・美術館係主査 藤原 千晶
図書・美術館係主査 有江 俊哉

(4) 指定管理者 (株)図書館流通センター

統括責任者 下田 富美子
サブチーフ 木村 亜沙子

6. 傍聴人数 0人

7. 議題及び審議の内容

【議題】

- (1) 令和5年度事業報告について
- (2) 令和6年度事業計画について
- (3) その他

【提出資料】

- (1) 令和5年美術館経過報告（4～2月）
- (2) 令和5年度事業総括表
- (3) 令和6年度事業計画表

【議題及び審議の内容】

- (1) 令和5年度事業報告について

事務局による説明。それに対する質疑応答。

《主な質問・意見等》

会長前年度の実績と比較できる資料にしてほしい。

委員A全体的に昨年度からの事業実施を考慮されているが、広報活動に関しては依然として課題が存在する。自己評価においても広報にはB評価がつけられており、改善の意欲が感じられる。

会長子育て世代の委員からは、どのような広報が求められているのか。

委員AS N Sの利用がある。織田廣喜美術館のS N Sを定期的を確認しているが、更新頻度が少ないと感じている。もっと活発に活用することで、子育て世代や若い世代が美術館を訪れるきっかけとなると考えている。

会長情報提供は一度に大量でなくても良い。美術館やその周辺での出来事、例えば「美術館の周辺で桜が咲き始めた」などの小さなトピックスを高頻度で発信することで、効果的な情報提供が可能であると考えられる。

委員Aその通りである。また、建物のデザインが建築家によるものである点も、段階的に情報提供することで良いと考える。

会長情報提供においては、多くの情報を一度に発信しようとするとう更新頻度が低下する恐れがある。その代わりに、頻繁に小さな情報や話題を発信することで、市民が美術館に興味を持ちやすくなると期待される。

委員B本年度の入館者数は1万人をわずかに上回り、うち小中学生は552名と報告されている。この数字が昨年度と比べて増加しているのか、MOA児童画展や小学校児童画展の開催と相関があるのか確認が必要である。さらに、アートキッズの1期と2期での募集分けの効果も評価する必要がある。

指定管理者応募内容に大きな変化は見られなかった。

委員B美術館のS N Sをフォローして見ているが情報の出し方に苦慮されていると思う。フォロワー数を増やすことが効果的であると考え。飯

塚市では高校生が高齢者にスマートフォンの使い方を教える事業が実施されている。美術館でも来館者にSNSのフォローを促し、次回来館時に「フォロー割」などのインセンティブを設定する提案はどうだろうか。

会長 心理的に割引などのインセンティブがあると、市民と美術館との繋がりを深めるきっかけとなる。高校生のボランティアについての報告があったが、若い世代が月に一度でも来館することで展覧会との関わりや支援、利用者間のつながりが生まれる。社会的なつながりは健康を維持する要素とも言われており、美術館がそのつながりの場として機能することを期待する。欧米ではミュージアムは学びの場、教育の場、ケアの場として捉えられている。美術館で織田廣喜とのつながりを感じるだけでなく、他の人々とのつながりも持ち、さらにSNSでの割引も提供されると、美術館は幸福感を感じられる場となるだろう。

委員B 「ぐりとぐら」の展覧会は内容も良く短大生にも紹介し来てくれた。毎年良質な企画が展開されており、今年度も「昆虫写真展」などの魅力的な展示が多かった。

委員C 美術館の多彩な活動に注目しているが、その情報が十分に市民に伝わっていないと感じている。情報収集の方法が世代によって異なる現代において、市広報誌、SNS、報道機関など、多様なメディアを活用した情報発信を推進し、幅広い世代に美術館の魅力を伝える取り組みをお願いしたい。特に展覧会の準備段階での情報発信方法について、私たちの世代はSNSを、親世代は紙媒体を主に利用していることを考慮していただきたいと思う。

会長 市民へ向けての広報はどのように行っているのか？

指定管理者 チラシの余剰印刷に対応して、ポスターを学校や公共施設に掲示して情報を発信している。さらに、SNSやホームページを通じてデジタルでの情報提供も行っている。広報「嘉麻」の紙面制限を考慮しつつ、夏の展覧会や県展などの主要な情報を掲載している。

会長 嘉麻市には回覧板という広報手段はあるのか？

事務局 過去には実施していたが、現在は実施していない。行政部門が広報データを指定管理者から預かり、嘉麻市の公式Lineでの登録者向け配信や、市役所入口のデジタルサイネージでの掲示を行い、情報を広く周知している。さらに、市内の小学校、中学校、義務教育学校で使用されているタブレット端末への配信も実施している。

会長 公式L i n eへの友達登録を促す行動は何かやっているのか？

事務局 美術館の公式L i n eアカウントは現在設置しておらず、嘉麻市の公式アカウントを活用して情報発信している。このアカウントへの登録促進として、市報等の告知や市のD Xの取組みとしての周知している。

会長 美術館の受付等でもL i n eの登録促進の掲示はあるのか？

指定管理者 美術館の受付や図書館で情報を掲示している。

会長 情報を広く周知することが目的ではなく、市民がその情報に気づき、登録し、そして活用することを目指す必要がある。この活用にあたっては、行政が適切なりテラシーを提供し、責任を持つ必要があり、特に高齢者が多い市民に対しては、美術館の対面対応を活用して、L i n eの登録や利用方法の説明を行うことが重要である。

委員D 美術館が年々魅力的で身近に感じられる場所として認識されていることを実感している。年明けの「ぐりとぐら」の展覧会やコンサートにも参加したかったのだが、インフルエンザの流行や予定が重なり、訪れることができなかつたのは非常に残念であった。碓井義務教育学校は美術館との距離が近いこともあり、3年生の生活科の授業で美術館を活用したことを校長会で報告した。他の学校長からも好評で、スクールバスの利用などを含む美術館訪問の具体的な仕組みづくりに関心が高まっている。さらに、P T Aの役員は意識が高く、発言力もあるため、美術館の情報をP T A組織に周知してもらいたいと考える。

委員E 文化協会の会員も高齢化が進んでおり、スマートフォンを持っている方も増えているが、利用方法に慣れていない方が多いのが現状である。チラシなどにQ Rコードが掲載されていても利用できない方が多く、デジタル情報の活用促進が課題となっている。回覧板が存在する時には、事業のチラシと一緒に配布することで広報効果が得られていた。5月に「青空フェスタ」を開催する際、広報を山田地区に限定されるが、各行政区長に依頼して回覧板を利用してもらっている。その効果は具体的には不明だが、試みる価値があると考えている。市の公式L i n eや文化協会のS N Sアカウントでの情報発信も行っているが、高齢者への情報伝達は難しい面がある。また、学校でのチラシ配布も親に届かない場合があるため、P T A役員への依頼も有効な手段と思う。

会長 本日の話題は情報格差についてである。超高齢化社会において、情報格差が明確に存在している。このような状況を考慮して、さまざまな方法

で情報を発信することが重要である。先ほどの意見から、回覧板の再導入を検討し、その効果を評価して最も効果的な広報手法を見極め、活用すべきである。高齢者の方々はスマートフォンの利用に関心があるものの、使いこなすためのメリットが明確でなければ、積極的に利用する意欲が湧かない。高齢者向けのインセンティブ設定が鍵となる。生涯学習は有益な学びを選び、追求につながるものである。同様に、高齢者がスマートフォンを有効に利用できるメリットを提示することが重要である。

会長 会議開始前に常設展示を鑑賞したが、美術館スタッフが選んだ6作品のミニコーナーが特に興味深かった。作品に関する感想や気づきを2段で紹介しており、学芸員の解説文とは異なる視点からの情報が提供されていた。来年度の計画にはボランティアに作品を選でいただきたいとのことだが、学芸員以外のコメントが含まれると、市民参加型の美術館として更に魅力的になるだろう。市民が自分の気づきや感想が共有されている作品を展示していると、他の市民も参加したくなるという好循環が生まれる可能性がある。他の美術館にはない良質な展示と感じた。一方で、改善点として高齢者の来館者が多いため、文字のサイズが小さい。文字を大きくするのではなく、海外の博物館のように作品の横にワークシートを配置する方法も検討してはどうか。作品番号のワークシートを手元で参照することで、必要な解説を読むことができる。このような工夫を取り入れることで、作品自体の邪魔になることなく、必要な情報を提供できるだろう。

館長 本日の会議では、多くの委員から広報の不足が指摘された。常日頃から担当係に道の駅「うすい」は年間50万人の利用者があり、ここを先ほど意見でもあったデジタルとアナログ双方の広報を使い、活用しなければならないと話している。道の駅側も協力を申し出ており、「一緒に取り組みましょう」との意向を示している。道の駅にはパン屋やコーヒーショップなどがあり、情報コーナーも設置されている。イベントを共同で開催するだけでなく、50万人の利用者に向けた効果的な広報が可能であり、さらなる広がりが期待される。指定管理期間の2年間で終了した。直営では実現しなかった民間同士のさまざまな取り組みが、指定管理者制度の導入による付加価値とされている。したがって、今後の6年度の事業計画の説明において、先述の視点を含めて皆様のご意見をお聞きしたいと考えている。

会長 道の駅の50万人の利用者へのアクセス方法が課題となっている。全国の道の駅に併設されている美術館などを訪れる際、ある道の駅のカフェ

やレストランのテーブルには三角柱の掲示物が配置されており、そのうちの二面はメニューなどの広告で、残りの一面には博物館の情報が掲載されていた。メニューを見た時に連続した動作として利用者の目に留まる。そこから興味を持たせる効果がある。繋がり方の仕掛けが考えられる。

館長道の駅の前には美術館の大きな看板が設置されているが、目に留まる人と留まらない人がいる。看板以外にも、カフェでのくつろぎの時間やパン屋でのレジでの待ち時間など、広報の適切なタイミングが考えられる。会長の提案によるこれらの周知のタイミングを活用することができる。

会長美術館横の芝生エリアで、道の駅で買ったパンや弁当を食べるといふ提案をするなど、道の駅と美術館を繋いでいく方法は考えられる。

委員B本物の作品を持ち出すことはできないだろうが、レプリカを道の駅に飾るなどを飾り、お勧めの絵等などとして紹介してはどうか。

館長織田廣喜美術館は日本で希少な固有の作家の美術館である。企画展などの事業は重要だが、基本的には織田廣喜の知名度を高めることが目的である。その部分が十分でないと感じている。市民は美術館を知っているものの、展示内容を把握していない方も一定数いるという点に注意を払う必要がある。

会長「春のコレクション展」は「花と少女」というテーマで展示され、関連する作品が一堂に展示されている。美術館を訪れることで、周辺の春の草花とともに春の気分を楽しんでいただけることを織田廣喜の作品が表現している。しかし、この体験は織田廣喜美術館を訪れなければ得られないものである。来館者を増やすための方法を次年度に考慮し、様々な試みを行い、その効果を検証するといふ。

(2) 令和6年度事業計画について

指定管理者による説明。それに対する質疑応答。

《主な質問・意見等》

会長企画展はどのような内容か？

指定管理者石川えりこさんとささめやゆきさんと嘉麻市民を結びつけるような展覧会を計画している。

会長会期が7月19日からだが学校の夏休みなのか？

委員D夏休み直前である。

会長子どもたちに観覧してもらいたい展覧会の会期を6月末から7月初

旬に設定することは可能か？学校の視点から考えると、1学期中や2学期が始まってから9月に美術館を訪れる計画が立てられるのか？

委員D どちらも忙しい時期ではある。

会長 令和7年度については、展示会期を9月にずらし、2学期にスクールバスを活用して美術館訪問を授業に組み込みやすい環境を整える状況をつくってはどうか。夏休み中に家庭での美術館訪問の促進も重要だが、学校が柔軟に活動できる環境整備も考慮すると良いと思う。

会長 図書館流通センター社内コレクションの展示という計画があるが、どのくらいの大きさで、触ったりできる作品なのか？

指定管理者 人間一人分くらいの大きさで、触ることはできない。

会長 新聞や雑誌を用いた作品とあるが、この展示に合わせてワークショップなど計画するのか？

指定管理者 計画する予定である。

会長 図画工作と連携して、市内の子どもたちが美術館訪問を当たり前と感じるような取り組みを考える際、日程の設定にも令和7年度には考慮してほしい。

会長 来年度は新規の事業はあるのか？

指定管理者 特にない。今までの取組みを踏まえて行う。

委員B 令和6年度もピアノコンサートは計画するのか？

指定管理者 令和5年度は計画していなかったが、演奏者の持込み企画として実施した。令和6年度は計画をしていない。

会長 前は天候不良だったので、もう一度持込み企画でやりませんか？と声を掛けてはどうか？

指定管理者 展示室の中で、ギャラリートークと合わせての演奏であったので演奏空間も含めて参加者にも好評であった。

会長 恒例的に美術館と音楽のイベントを四季折々に開催するといいと思う。できれば持込み企画にするとコストも抑えられる。

委員B 隔年でもいいので継続していくといい。

会長 美術館でピアノ演奏しませんかという呼びかけもいいと思う。

事務局 以前はアクロス福岡の事業や近隣のジャズ演奏家のセッションを招聘し、展示室が満席となるほど好評であった。また、ピアノを演奏させていただきたいという持ち込み企画にも発展したことがある。先日の図書館での落語会と同様に、ジャズコンサートにも市民の中に潜在的なファン

層が存在し、両方のイベントも満席となった。

会長大衆芸能は一般の方々にそれぞれの好みがあり、美術館のこの空間でそれぞれの選択が可能となることで、多様な趣味を持つ市民が繋がる場となる。先ほどの広報の話題で触れられたように、様々な趣味や世代の市民が交流する場として美術館が活用されることを期待する。予算は美術館が負担しなくても、市内にはさまざまな人材がいる。これらの人材とのつながりを育む時間も大切だと思う。

委員C今日の意見が来年度の美術館の発展に少しでも反映されると良いと考えている。その実現のために皆様の尽力をお願いする。

会長優先順位を設けてできるところから、ひとつずつ実現していただきたい。委員が忌憚なく意見を発言されているのはそういう願いからである。

委員DP T Aの役員会がこちらで開催されると、この場所が集まりの中心となり、役員の皆様が美術館の情報を持ち帰る機会が増えるだろう。以前参加したバレンタインコンサートのピアノとサクスの演奏は非常に印象的で、再び美術館を訪れたいと感じた。碓井義務小学校の児童や生徒たちも美術館の隣の広場をよく利用しているが、他の人々にもっと活用されるべきだと感じている。

委員E夜間のイベントでは階段が暗く、注意が必要であった。子どもたちの美術館利用が増えており、将来の進路に影響を与える可能性もある。また、不登校だが絵が好きな子どもたちもいるので、彼らの支援に少しでも役立てればと考えている。

会長今回の議題は本年度事業報告及び来年度事業計画であり、委員の皆さんより多くの意見が出された。是非市民に開かれた美術館を作っていくことを来年度も頑張ってもらいたい。これは美術館運営協議会からのお願いである。

(3) その他

なし。

閉会

この会議録は、緒方会長に確認していただきました。